

掌（たなごころ）

柏崎市 花栄寺住職 九里悠禅

「た」＝「手」（て） 例：手折る 手向ける

「な」＝助詞「の」 例：ヌナカワヒメ（玉[ヒスイ]の川の姫）

「ごころ」＝中心

たなごころ＝手の中心＝てのひら

● 老いと病と死

「アーナンダよ、わたしはもう老い朽ち、齢をかさね老衰し、人生の旅路を通り過ぎ、齢に達した。わが齢は八十となった。譬えば古ぼけた車が革紐の助けによってやっと動いて行くように、恐らくわたしの身体も革紐の助けによってもっているのだ。」

● 苦を乗り越える

身体について、感受について、心について、諸々の事象について「観察し、熱心に、よく気をつけて、念じていて、世間における貪欲と憂いとを除くべきである」

● この世における幸せ

「今でも、またわたしの死後にでも、誰でも自らを島とし、自らをたよりとし、他人をたよりとせず、法を島とし、法をよりどころとし、他のものをよりどころとしないでいる人々がいるならば、かれらはわが修行僧として最高の境地にあるであろう、一誰でも学ぼうと望む人々は一。」

『ブツダ最後の旅－大パリニツバーナ経－』（中村元訳、岩波文庫）